

建築士 やまなし

No. 71

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



①



③



⑤



④



⑥



②

■平成28年度 山梨県建築文化賞受賞作品

- ①星のや富士(一般) (建築文化賞)
- ②山梨学院大学スポーツ科学部棟(一般) (建築文化賞)
- ③あいだの家(住宅) (建築文化奨励賞)
- ④早川町役場新庁舎(公共) (建築文化奨励賞)
- ⑤山梨県立富士山世界遺産センター(公共) (建築文化奨励賞)
- ⑥ミサワワイナリー ワインカーブ CUVEE MISAWA
(良好なまちなみ景観) (建築文化奨励賞)

●目次●

| | |
|---|----|
| 年頭のごあいさつ (一社) 山梨県建築士会 会長 雨宮健一 | 2 |
| 国土交通省大臣表彰をいただき 甲府支部 進藤哲雄 | 3 |
| 日本建築士会連合会長表彰を授与されて 市川支部 望月喜二・甲府支部 長田孝三 | 4 |
| 第51回 親睦スポーツ大会を終えて 韮崎支部長 前島治文 | 5 |
| 全国大会「大分大会」に参加して 青年部会 副部長 長坂 治・(石和支部) 天野 実 | 6 |
| 青年部会の活動報告 青年部会 部長 渡辺省三・石和支部 大沼 伸 | 7 |
| 女性部会の活動報告 女性部会 山崎理恵 | 7 |
| 山梨県地震防災訓練(応急危険度判定訓練) 身延支部 望月 武 | 8 |
| 被災建築物応急危険度判定模擬訓練に参加して 大月支部 中村 春彦 | 8 |
| 建物探訪No.11 | 9 |
| 県からのお知らせ 山梨県建築住宅課 | 10 |
| 平成28年度 山梨県建築文化賞 山梨県建築文化賞推進協議会 | 11 |
| 事務局よりお知らせ 会員の動静 編集後記 | 12 |

年頭のごあいさつ

一般社団法人 山梨県建築士会

会長 雨宮 健一



あけましておめでとうございます。皆様に於かれましては、輝かしい歳の幕開けをお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私事で大変恐縮ですが、去年は黄綬褒章を授与され、皇居の豊明殿に於きまして天皇陛下に拝謁し、ねぎらいと激励のお言葉を賜りました。

褒章を授与される事となり、慌てて俄かに調べてみました。褒章には6つの種類があり、紅綬、緑綬、黄綬、紫綬、藍綬、紺綬それぞれ自己の危難を顧みず人命の救助に尽力した方、長年にわたり社会に奉仕する活動（ボランティア活動）に従事し、顕著な実績を挙げた方、農業、商業、工業等の業務に精励し、他の模範となるような技術や実績を有する方、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた方、会社経営、各種団体での活動等を通じて、産業の振興、社会福祉の増進等に優れた業績を挙げた方、国や地方公共団体から依頼されて行われる公共の事務（保護司、民生・児童委員、調停委員等の事務）に尽力した方、公益のため私財を寄附した方等が授与されるようです。

褒章と聞きましても今までは、余り関心もなく他人事のように只聞き流していたものですが、いざ自分の事となると、字を書こうにも覚束なく、改めて辞書を調べ直してみました。「褒」は、会意兼形声文字で保と衣で成り立っていて、衣で乳児を抱きかかえる様子を表しているそうです。意味は「ほめる」とか「たたえる」だそうです。昔から褒められると木に登ってしまう私に取りましては、最高のご褒美でした。

しかし、この荣誉こそ会員の皆様や諸先輩方のご指導・ご鞭撻があって初めて賜ったものと、改

めまして感謝申し上げます。また、皆様を代表して「預かった物」と大事にしたいと考えております。そしてこの出来事が、これから建築士を目指す方々、建築士としてご活躍されている方々の励みの一端になって戴ければ幸甚です。と言いますのも、建設業就業者がピーク時の30%減少し、建築学科系学生や専門高校卒業生の理工系入職者数もともに減少している現実があります。このままで次世代への技術や技能は、円滑に継承されて行くのでしょうか。こうした背景の一つとして、競争の激化によるダンピング受注の弊害が指摘されています。適正な労務費の支払困難や下請けへの支払賃金の減少など就職先としての魅力が薄れてきていることが懸念されます。事実、建設業に従事する労働者の賃金は、製造業と比較しても、年間賃金支給額で約46万円程度低くなっているほか全産業と比較しても低水準で推移しています。この業界を、その担い手に適正な対価が支払われる魅力ある産業として再生していくことが早急に望まれます。建設産業は、社会にとってなくてはならない産業です。災害時には、その最前線で地域社会の安全・安心の確保を支える「地域の守り手」として、災害時の極めて厳しい状況の中で、危険を顧みず大変重要な役割を果たします。災害に強い国土の形成に向け、次世代への技術の継承に、一丸となって尽力して行きましょう。

最後になりましたが、更なる皆様のご支援・ご協力を御願い申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。



国土交通省大臣表彰をいただいて

甲府支部

進藤 哲雄



去る7月11日国土交通省において大臣表彰（建設事業関係功労）を授与していただきました。

山梨に帰ってきて父の事務所に勤めるようになってから今年で丁度40年になります。東京の設計事務所に勤務して5年、ようやく仕事が面白くなって来た頃だったので、山梨に帰るのは嫌でした。学生時代から約10年東京暮らしが続いたので、山梨に帰っても浦島太郎状態で、高校時代の親しかった友人も県外に出ていて友達がいませんでした。そんな時、故田中哲也さんが「進藤さん山梨に帰ってきて設計をしているなら建築士会青年部に入りなよ」と誘ってくれました。それから長い建築士会との付き合いが始まりました。

数多くの良い仲間を得て、朝日町のまちづくりを始まりとしたまちづくり活動、景観ガイドプラン作りや太田町清水商店プロジェクト、青年協関東ブロック会や全国青年委員長会議等での他県仲間との交流など楽しい経験と勉強をさせていただきました。

そして個人的に大きな転機になったのは田中さんが「進藤さん、今度建築士会連合会で内井昭蔵さんがコーディネーターでフランクロイドライトの建築をめぐる旅があるから行こうよ」と誘ってくれた事でした。それまで海外旅行には一度も行ったことがなく、あまり興味もなかったのですが、行って見ると楽しくて一発ではまりました。それから海外ツ

アーがやみつきになり自分たちで企画して青年部を中心とした、アメリカやフランスのツアーにも出かけました。又これらの、士会活動を通じて色んな友達、先輩や後輩を得る事ができました。

そんな中でNHK番組審議会委員、山梨大学非常勤講師、YBS山梨放送モーニングキャスター、甲府裁判所調停員等なかなか経験出来ない貴重な経験をさせていただく事ができました。

長年の活動を通じて受けた恩に対して何か士会や地元にお返しできる事はないかと考えまして、5年前から「2040」というまちづくりプロジェクトを建築士会を含む建築設計4団体で始めました。地域の建築士が地元を少しでも良くしようとの想いで始めた活動です。若い人たちを中心に山梨の未来を形にしていこうというプロジェクトです。興味のある方は是非ご参加ください。

振り返ってみると私が過ごしてきた、山梨での40年の建築設計の人生のなかで建築士会での活動や仲間が大きな意味をもっていることを改めて感じます。皆さまに支えていただき大臣表彰を頂くことができました。ほんとうに感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

市川支部

望月喜二



この度の全国大会で表彰を頂きました。

昭和50年4月塩山土木事務所に異動、建築士会入会41年になります。塩山支部事務局で建築士合格者に入会を勧めたことが最初の士会の仕事でした。その後、県職員の異動で市川、北富士、都留、石和、韮崎、中巨摩、甲府の管内土木に勤務し、各支部に建築行政の御協力をお願いして地域の会員から建築行政の諸問題、意見等を拝聴し建築士仲間として建築行政窓口の改革の必要性を痛感しました。建築確認申請、公庫融資設計・現場審査の早期処理要望は特に強く、処理期限の厳守、担当者の法文解釈の間違い是正等、先輩・同僚に苦言を呈し過ぎ、役所での私事評判は悪かったと思います。

昭和51年①敷地の道路・地目状況等其地地確認は市町村の仕事と塩山市当局と協議して県内初の建築確認申請事前審査書添付経由を始めた。②都市計

画区域外の「建築工事届提出証明書交付」の必要性の意見から各土木建築担当者会議に提示発信した。昭和63年石和土木で峡東都市計画区域の拡大・見直し実施、バブル時代の乱開発防止対策要綱作成指導も懐かしく思い出深い。昭和61年から資格審査委員に委嘱され31年間、指定試験機関の試験監理員を委嘱され試験業務の担当を出来得た事は、兩宮健一会長を始め関係する会員、諸先輩のご協力と感謝しております。

第59回建築士会全国大会「大分大会」参加は事務所協会他の山梨県建築関係4団体と合同の初の試みで、10月24日に熊本県事務所協会において「熊本地震義援金目録贈呈」「熊本地震被災地視察に伴う意見交換会」にも出席することが出来、懇親会席上も表彰を祝って戴きありがとうございました。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

甲府支部

長田孝三



第59回建築士会全国大会において会長はじめ諸先輩のご推挙を頂き、日本建築士会連合会長表彰の栄誉を受けられたこと心より感謝申し上げます。

東京建築士会から山梨県建築士会へと移ったのは東京の設計事務所を退社し甲府で事務所を始めて2年目、20代の頃でした。朝日町まちづくりや石和の景観ガイドプランなどを知り、進藤哲雄さんや久保田要さんたちと共に青年部活動をしたと思ったのです。以来35年も経ってしまいました。

この歩みの大半は青年部と共にあったように感じます。青年建築士研究集会で関東ブロック代表として2年連続全国大会で発表させていただき、建築士が積極的に環境問題に取組む必要性を述べさせていただいたのは30年前の事でした。まちづくり活動では、増穂町から委託された増穂まちづくりプラン

策定や身延しょうにん通り街並みデザインガイドプラン作成等の活動をしてまいりました。山梨県建築士会青年部のまちづくり活動は関東ブロック青年建築士協議会のみならず全国的にみても先駆的な活動と評価されておりました。関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会山梨大会を甲府で開催したのは20年前の事でした。青年部・女性部併せて30名に満たない小さな実行委員会が400名もの方々をお招きできたのも、多くの皆様に支えて頂いたことと深く感謝しています。

建築士会を通じた県内外の多くの皆様との絆は私の大きな財産となりました。先の大分大会式典会場でも各地の方々と旧交を温めることが出来ました。このような場を与えて頂いた建築士会に感謝申し上げます。

支部だより

第51回 親睦スポーツ大会を終えて

葦崎支部長 前 島 治 文

一昨年の第50回親睦スポーツ大会が暑い夏から11月に変更され気候的に好評だった事を受け、今大会も11月5日という秋の紅葉シーズンの中、北杜市長坂スポーツ公園に於いて開催致しました。

県内10支部、青年部会、女性部会の30チーム、約180名の会員の参加を頂き、当日は正に雲ひとつ無い絶好のスポーツ日和にも恵まれ、盛況に開催出来ました事、心より御礼申し上げます。

開会式では雨宮会長のご挨拶に続き、渡井攻山梨県建築住宅課長、赤羽久北杜市建設部長より暖かいご祝辞を頂き、このご両名による始球식을皮切りに、競技がスタートしました。

競技場の芝の影響で飛距離が伸びず、ゴールのかなり手前でボールが止まってしまうケースが多々見受けられ、選手は皆四苦八苦しながらプレーをされていた様です。その中で塩山支部の深沢さんが2位に5打差の34打という素晴らしいスコアで個人優勝、団体では青年部会が2位の北富士支部と14打差という大差で優勝、大会2連覇という快挙を成し遂げました。

社会・地域貢献の為、日頃よりご苦勞されている会員の皆様、高原の空気を吸いながら日頃のご苦勞を一時忘れられる有意義な1日となりましたでしょうか。

最後に、皆様方のさらなるご活躍とご健勝、又建築士会の益々の発展を祈りつつ、大会の感想とさせていただきます。



建築士会 全国大会「大分大会」に参加して

全国建築士フォーラム 参加記

青年部会 副部長 長 坂 治 (石和支部)

仕事での実践課題を意見として入れることができたこと、これは特筆できる自分にとっての成果と言える全国大会参加となりました。

大分県府の地で開催された今年の全国大会、県青年部会は前日の全国建築士フォーラム（日本建築士会連合会青年委員会主催）を中心とした行程で参加してきました。天候の優れない中ではありましたが、フォーラムには山梨県青年部会から8名出席し、全国の青年建築士の方々と発表を聴き、意見交換し、交流を育む機会となりました。大会前後の九州視察見学も充実し、公私共にためになる気づきの多い3日間とすることができました。

全国青年建築士フォーラムの具体的な内容は、「魅力ある未来社会へ」～行動しなければ何も変わらない～をテーマに、第一部「平成26年度全国青年委員長会議で掲げた目標の成果発表・報告会」として、各ブロックの代表による発表で始まり、第二部「災害時、私たち建築士に出来ること」にて熊本県建築士会から熊本地震現況報告の発表と福島・兵庫・熊本の方によるパネルディスカッション、後半は参加者全員を7班

に分け、災害を通じて建築士に出来ることなどのテーブルディスカッション、そして各テーブルまとめ発表。第三部「交流会」では自県他県の方々との懇親の場でした。

全国建築士フォーラムも今年で7回目、全国規模の青年層建築士で将来について考える唯一の機会、関東甲信越ブロック以上に多様なやり取りを感じられる場であると思います。多くの方に一度感じていただきたい。来年はぜひ一緒にしましょう。



全国大会 青年部会 視察道中記

天 野 実 (石和支部)

昨年に続き、先輩方から声をかけてもらい、非常に貴重な経験をさせてもらいました。

話題のLCCを利用しましたが、フライトについては、金額なりで、特に不満はないものの、成田空港第3ターミナルが倉庫を改修したような簡素な建物で、「必要最低限」を形にしたような建物が、空港という

公共建築仕様であることは、今後の私の考え方に幅を持たせてくれました。

大分県府での大会参加の後、北九州は小倉に向かい、まちづくり事業の事例をいくつも見学・体験してきました。古い商業ビルをドミトリーとバーに改修した「TANGA TABLE」や魚町商店街に残る重厚な日本家屋と中庭をカフェに改修した「三木屋カフェ」に訪れ、男性数人でジロジロ周りを眺めながら、どう施工したのだろう、どう法規をクリアしたのだろう、どのようなアプローチで成立させたのだろう、といった話で盛り上がりました。

こういった旅行の醍醐味は、建築士でありながら、それぞれが違う畑で仕事をしている同世代の会員同士が見学先でそれぞれの見解を聞いたり、意見交換が出来きたりすることだと思います。普段多かれ少なかれ孤独に仕事をしている私たちにとって、こういった交流は、視野を広げることができる有用な機会であると思います。



青年部会の活動報告

新聞紙ドームワークショップ

青年部会では、今年から新聞紙ドームワークショップに積極的に取り組んでいます。

きっかけは6月に開催された、関プロ山梨大会の第一分科会で神奈川県建築士会が行った新聞紙ドームについての発表を見て、取り組んでみようと思いました。

神奈川士会さんに色々ご指導いただき、7月2日には青年部会で試作会を開催し、試作品のドームが膨らんだ時には参加した大人の会員も子供のように喜んでいました。

青年部会 部長 渡辺省三

そして7月29日に一宮町で、8月4日には御殿場にて夏休みの児童向けのワークショップを開催しました。

内容は、建築士と建築士会のPR、膜構造についての説明、制作、最後はカウントダウンと共に取り壊し、清掃という流れで行いました。

結果は大成功！ドームが膨らんだ時の子供のワクワクした顔が印象深いイベントとなりました。

青年部会は今後もこの新聞紙ドームを活用し、物づくりの楽しさを伝えていきたいと思っています。

新聞紙エアドームを作ろうワークショップ 石和支部 大沼伸

石和支部青年部主催で、一宮町の児童40名と新聞紙を使ったワークショップを行いました。児童と112枚の新聞紙を貼り合わせ大きなドームを作りエアを入れて膨らませ、中に入ってもらいま

した。

建築に関する事にふれてもらい、建築士になりたいと言う子供もいて非常に有意義なワークショップでした。



女性部会の活動報告

地盤についての勉強会

平成28年9月10日(土)に甲府南公民館に於いて「地盤についての勉強」を行いました。

建築物を設計するとき、地盤の強度を確認することがとても大切です。一般の住宅の場合はほとんどスウェーデン式サウンディング試験をしてもらいます。構造の先生方に教えていただいたりした調査結果の見方で検討しています。

試験結果のほかに、土の種類、沈下の特性、近隣の状況などを検討することは必要ですが、なか

女性部会 山崎理恵

なか納得が行く考察ができずにいました。

今回の講習で、山梨県内の地域特性や判定一覧を見せていただき勉強になりました。

私たちは、ある一部ではなく様々な地域の設計をするので、その地盤の状況を出来るだけ知ることが必要だと思いました。

また、今後液状化に対しても、お客様に危険性について伝えなければならないと教えていただきました。

山梨県地震防災訓練（応急危険度判定訓練）

身延支部 望月 武

平成28年11月20日（日）の朝8時頃、糸魚川―静岡構造断層帯（南部区間）付近を震源とするマグニチュード7.6の直下型地震が発生し、峡南地域で大きな被害となり早川町では震度7の揺れを観測したことを想定し、町応急危険度実施本部の要請により建物の倒壊、二次被害を防止する為、危険度判定実施に、身延支部応急危険度判定士会員訓練に参加させていただきました。

この実施訓練を体験しやはり日頃の防災意識危険度判定士の責任意識の必要性を実感いたしました、



危険度判定訓練参加により判定士として十分な知識がなく戸惑うところ数々あり、実際の出動要請があったときはたして判定士の本来の行動ができるのかなど不安心に感じさせられました。

このような訓練体験の積み重ねが実際の時に役にたてられるようこれからも防災意識を高め私たちに、（出来ること、役に立つ場所に出れること）建築士としての誇りを持ち頑張りたいと思います。

山梨県地震防災訓練（応急危険度判定訓練）貴重な一日でした。



被災建築物応急危険度判定模擬訓練に参加して

大月支部 中村 春彦

平成28年9月30日に、上野原市内で被災建築物応急危険度判定模擬訓練が行われました。この訓練が実施されることについては、事前に山梨県建築士会大月支部長の和田さんよりお聞きしており、参加者の呼びかけも依頼されていました。山梨県建築士会と上野原市は、2年前に大規模地震時における「被災建築物応急危険度判定の協力」の協定を結んでおりましたので、その伝達訓練を兼ねた呼びかけを行いました。その結果、現在、上野原市在住の応急危険度判定士10名の内、7名の方に参加していただきました。

この被災建築物応急危険度判定模擬訓練は、上野原市上野原に所在する市営大道団地内の2棟の建物

が解体されることになっていましたので、解体する前に模擬訓練を、という事で山梨県建築住宅課が主催して行いました。午前の部と午後の部の2回行われ、私は午前の部に参加いたしました。模擬訓練には何度か参加しているのですが、上野原在住のメンバーの中には、初めての方も多く、もしもの時に備えていい経験になったものと思います。いつ起こるか分からない自然災害に、いち早く対応出来るよう、これからもこのような訓練には積極的に参加し、また、応急危険度判定士の更新を忘れている仲間にも再度呼びかけて、応急危険度判定士の輪が広がりませう、今後も微力ながら努力したいと思います。



2040プロジェクト

プロジェクトリーダー 進藤 哲雄

建築士会を含む建築設計4団体で「2040プロジェクト」というまちづくりプロジェクトを始めてから5年になります。

その間報告書ステップ1、ステップ2、ステップ3の発表。各々の披露を兼ねたシンポジウム、関係団体との意見交換会やワークショップ、甲府市中心街活性化事業の採択を受けた実践活動「オリオンイースト、グリーンリノベーション」と活動を続けてきました。

コアグループのメンバーも青年部や女性部会からのメンバー、甲府市役所の職員の方々の方々の参加も加えて20名を超えました。

2040プロジェクトは「甲府盆地を世界一美しく魅力的な盆地へ」をキャッチコピーに甲府盆地、山梨のランドデザインを考え、私達の建築士としての職能を生かし具体的な形にして提示する「見える化」をして提案を行おうというものです。

ステップ1ではプロジェクトの方向性や山梨全域のビジョン、リニアアクセスなどを。ステップ2では甲府市中心街の活性化を。そしてステップ3では甲府盆地全域に対しての開発ビジョンを荒川河川敷を利用した複合的都市軸を中心として提案しています。この活動に関しては今年清里で行われた建築士会関東ブロック青年協山梨大会でも発表させていただきました。

又一昨年にはスペインマドリッドに、河川公園マドリッドリオとパトリックブラン設計の壁面緑化「カイシャホールム」の視察。そして今年11月の20日から26日までイタリア、ミラノ、フィレンツェの視察を12名で行いました。今回の研修はミラノ中央駅前のオルタヌーボー地区再開発、その中でも今注目されている高層緑化マンション「垂直の森」。フィレンツェでは周辺景観を最大限に考慮したファサードの無いアンティノリワイナリー、「勝沼や盆地周辺の景観と建築物との関係では非常に参考になる」などを視察してきました。

2040プロジェクトはこれからも息長く活動を続けて行きます、興味のある方はぜひご参加ください。

参加者の一言

2040の活動に参加させて頂き、日が浅いので皆さんの活動を見ての感想です。山梨の将来を見据えて、未来に向けて建築に携わる人として、今出来る事、今考える事の大切さを教えてもらいました。これからの構想も楽しみです。(堤 美鈴)

STEP3からの参加ですが、メンバーの皆さんがとても気さくな方ばかりです。会議では様々なアイデアを出し合いながら意見交換し、1つのものを仕上げていくチームワークの良さに驚きました。(田邊佳子)

より良い将来の山梨のために、そのビジョンを共有することはとても意義のあること。様々な新たな価値に触れつつ、建築設計に携わる者同士で話し合える、貴重な場であると感じています。(長坂 治)



ステップ3シンポジウム 於：山梨県立図書館(H28.9.28)

ステップ3から参加。山梨の将来を真剣に捉え取り組むPJメンバーの熱き想いに刺激を受けている。

山紫水明の地を生かし「地域の価値」を高めるべき、地元からの提案だからこそ意義深いと思う。

(中澤幸子)

民間の建築士の皆様との親睦を深めつつ、専門的な視点から甲府市の将来について考えていくことができ、楽しく貴重な時間となっています。(甲府市役所 大塚たまき)

みなさんの柔軟で大胆な思考に、いつも刺激を受けていました。2040プロジェクト、長い時間かけてでも実現できたら素敵です。(松野範子)

県からのお知らせ

山梨県県土整備部建築住宅課

<http://www.pref.yamanashi.jp/kenchikujutaku/index.html>

◆被災建築物応急危険度判定の出動要請訓練を実施します

大規模な地震により被災した建築物に対する応急危険度判定は、地震発生後、速やかに活動を開始することが求められ、かつ、短期間でより多くの建築物の判定を行う必要があります。

このため、平成29年1月17日に県から市町村及び各判定士への連絡が迅速に行われること等を目的とした訓練を実施します。

当日は、各判定士に電話や電子メールにて出動要請の連絡を行いますので、ご協力をお願いします。

※また、判定士の登録が更新切れとなっている方は、随時、更新しますので、建築住宅課までご連絡ください。新規で判定士の登録をしていただける方は、平成29年7月頃に予定している応急危険度判定士養成講習会の受講をお願いします。
(連絡先 建築住宅課建築防災担当 055-223-1734)

◆緊急輸送道路等の避難路沿道建築物の耐震化及び木造住宅の耐震化に伴う支援事業について

地震発生時における住民の避難路や緊急車両の通行を確保することは、災害に強い県土づくりのために重要です。

平成25年の耐震改修促進法の改正により、市町村が耐震改修促進計画で定めた緊急輸送道路などで、地震による倒壊により道路を塞ぐ恐れのある建築物は、所有者に耐震診断を行わせ、その結果を平成31年3月末までに所管行政庁に報告することが義務付けられました。(甲府市内の建物は、甲府市に報告します。)

これに合わせて県は、対象建築物の耐震化を促進するために、災害時避難路通行確保対策事業を創設し、平成28年度の制度拡充により支援の対象となった耐震改修(建替え、除却を含む。)と併せて、診断から改修まで一環して耐震化を促進させる制度といたしました。

また、平成28年3月に改定した「山梨県耐震改修促進計画」において、平成32年度末における木造住宅の耐震化率の目標を90%と定め、引き続き住宅の耐震化を進めます。

この目標達成のため、平成28年度から平成30年度の3年間、高齢者世帯や未就学児子育て世帯、また東海地震の想定震度が6強以上の地域を含む市町村の住宅については、耐震改修工事の補助金限度額を80万円から120万円に、また、高齢者や未就学児がいる世帯については、住宅の耐震改修工事の補助金限度額を60万円から120万円に拡充しました。

建築士会会員の皆様には、一件でも多くの建築物の耐震化に結びつくよう、拡充した補助制度を積極的に活用していただき、地域の方々が住宅等の耐震化に取り組み、安心して暮らしていくことができるよう、なお一層のご協力をお願いします。

◆災害時における民間賃貸住宅借上げの事前登録制度の開始について

県では、大規模災害で住まいを失った方に対し、災害救助法に基づき、民間賃貸住宅を借上げて活用することなどにより応急仮設住宅を提供することとしています。

提供可能な民間賃貸住宅を事前に把握することで、災害時に応急仮設住宅を速やかに提供するため、事前登録制度付を開始しました。

賃貸住宅をお持ちの方や仲介している業者の皆様は、登録をお願いします。

◇登録をお願いする住宅(次の全てに該当すること)

- ・原則として昭和56年6月以降に建設されたもの
- ・世帯人数に応じた間取り・面積を有し、賃料が月額90,000円以内であるもの

◇契約期間は2年以内とし、県、被災者、貸し主による定期建物賃貸借契約を締結

※登録方法及び詳細については、山梨県県土整備部建築住宅課企画担当(TEL055-223-1730)にお問い合わせ下さい。

事前登録から契約までの流れのイメージ



「星のや富士」「山梨学院大学スポーツ科学部棟」が建築文化賞に選ばれました

山梨県建築文化賞への応募（住宅建築20点、一般建築物等17点、公共建築物等7点、計44点）の中から、建築文化賞には「星のや富士」と「山梨学院大学スポーツ科学部棟」の2点が、また建築文化奨励賞には4点が選出されました。

昨年11月15日に県立図書館において表彰式が行われ、後藤知事から受賞作品の建築主、設計者、施工者に表彰状と記念品が贈られました。

これまでの受賞作品も含め、建築住宅課のホームページに掲載されていますので、是非ご覧下さい。建築士会ホームページからもアクセスできます。

今後とも、本事業の推進に建築士皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



【平成28年度 山梨県建築文化賞等表彰建築物一覧表】

(敬称略)

| 賞の名称 | 部 門 | 建築物の名称 | 所在地 | 建 築 物 の 概 要 | | 建 築 主 | 設 計 者 | 施 工 者 |
|---------------|--------|----------------------|-----------------------------|-------------|-------------------------------------|------------------------|-----------------------------|---|
| | | | | 用 途 | 構 造 ・ 規 模 | | | |
| 建 築 文 化 賞 | 一般建築物等 | 星のや富士 | 富士河口湖町 | ホテル | 鉄筋コンクリート造・木造・鉄骨造／2階建て、2,551.9㎡ | ㈱星野リゾート | ㈱東環境・建築研究所 ㈱オンサイト計画設計事務所 | 清水建設(株) 関東支店 |
| | | 山梨学院大学スポーツ科学部棟 | 甲府市 | 大 学 | 鉄筋造／2階建て、3,162.29㎡ | 学校法人山梨学院 | 清水建設(株) | 清水建設(株) 関東支店 |
| 建 築 文 化 奨 励 賞 | 住宅建築 | あいだの家 | 甲府市 | 住 宅 | 木造一部鉄筋コンクリート造／2階建て・170.73㎡ | H 氏 | 西田司＋稲山貴則／オンデザイン | ㈱工藝舎 |
| | 公共建築物等 | 早川町役場新庁舎 | 早川町 | 庁 舎 | 鉄筋コンクリート造一部木造／地上2階・地下1階建て、1,740.54㎡ | 早川町 | ㈱佐野建築研究所 | 早野組・早邦建設共同企業体 ㈱若尾電気身延総合設備(株) |
| | | 山梨県立富士山世界遺産センター | 富士河口湖町 | 展示場 | 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造／2階建て、1,581.28㎡ | 山梨県 | ㈱竜巳一級建築設計事務所 | 富士急建設・コバヤシ工業・芙蓉建設共同企業体 ㈱ふじでん宮下設備工業・サンエイ共同企業体 |
| | | 良好なまちなみ景観を形成している建築物等 | ミサワワイナリーワインカーブ CUVÉE MISAWA | 北社市 | ワイン貯蔵庫 | 鉄筋コンクリート造／地下1階建て447.9㎡ | 中央葡萄酒(株) | ㈱設計組織アモルフ |

【山梨県建築文化賞の応募・受賞件数（第1回～第27回）】

| 住宅建築の部門 | | | 一般建築物等の部門 | | | 公共建築物等の部門 | | | 良好なまちなみ景観を形成している建築物等の部門 | | | | 計 | | | |
|---------|-----|-----|-----------|-----|-----|-----------|-----|-----|-------------------------|-----|---------------------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 文化賞 | 奨励賞 | 応募数 | 文化賞 | 奨励賞 | 応募数 | 文化賞 | 奨励賞 | 応募数 | 文化賞 | 奨励賞 | 部門別受賞数 | 応募数 | 文化賞 | 奨励賞 | 特別賞 | 応募数 |
| 8 | 33 | 852 | 16 | 29 | 804 | 18 | 26 | 683 | 6 | 35 | 住宅13 一般25 公共3 | 16 | 48 | 123 | 1 | 2,355 |
| 41 | | | 45 | | | 44 | | | 41 | | | | 172 | | | |

- ※ 第1回、第2回は、一般建築物等、公共建築物等、良好なまちなみ景観を形成している建築物等の3部門で募集。（住宅建築は一般建築物等に含まれた）
- ※ 第3回からは住宅建築、一般建築物等、公共建築物等の3部門で募集。良好なまちなみ景観を形成している建築物等については3部門から賞の主旨にかなうものを審査委員会の審査により選出。
- ※ 第17回からは、国、県の建築物についても表彰対象となる。
- ※ 山梨県建築文化賞推進協議会（構成団体）
（一社）山梨県建設業協会、（一社）山梨県建築士会、（一社）山梨県建築設計協会、（一社）山梨県建築事務所協会、（公社）山梨県建設技術センター、山梨県